

建物完成時の達成感

高校入學時は美術の道に進もうと考えていた。自分の好きな事ができたらいという単純な考えで、将来の自画像を楽観視していたのだ。そんな私の選んだ道は建設業だった。「美大進学に必要な文系科目よりも、理系科目の方が好きなら建築学科はどうか」という当時の担任教師の薦めが私の感性にハマった事がきっかけで、現在の私の生活が成り立っている。

現場管理の仕事は私の予想以上に時間が掛かり、根気と体力の勝負だった。業界では頻

凛としていきる

# 理系女性の挑戦

## 建設業界に女性の力必要



繁に耳にする3K（汚い・臭い・きつい）の汚いや臭いというのは最近ではイメージできない程改善されているように感じる。ただしきつい、というのはどんな業界でも同じだろう。私にも子供が一人いて、家事と育児と任

事の両立はきつい。それでもこの仕事を続けたいと感じるのは最近ではイメージできない程改善されているように感じる。ただしきつい、というのはどんな業界でも同じだろう。私にも子供が一人いて、家事と育児と任

めていく事は困難である。しかし、私はこの仕事を生涯続けたい。なぜならき

づく困難な現場の建物が完成した時の達成感、満足感は計り知れないのだ。そして、どんな苦勞も失敗も、いざ自分自身を高める肥やしとなり、かけがえのない経験値になる事を建設業に携わる人間は皆理解している。だからこそ、この仕事に誇りを持って突き進んでいるのだと私は思う。

建設業界でも女性はいくつか女性と男性の比率が同等の建設現場が誕生する事もあり得るのかもしれない。こ

でも、女性職人と出会う事もある。力仕事は基本的に出来ないが、弊社の行う塗装業、その他にも内装業、電気設備業、美装業などのきめ細かい作業は女性の方が向いていると私は感じる。

れからも建設業界には女性の力が必要だと私は強く感じるのだ。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

▽ 竹延 テクニカル  
リニキュアル部

△ 水島 千瑛



▽プロフィール▽ 11年 大阪工業大学工学部建築学科卒。同年電気設備会社に就職後、12年に妊娠を機に退職。15年1月、竹延に施工管理職として入社。